

恋愛の国の

17才♡

小林 沅雪



小林深雪（こばやし・みゆき）

講談社X文庫

1964年3月10日生まれ。うお座のA型。武蔵野美術大学空間演出デザイン学科卒業。'90年『ガールフレンドになりたい!!』で小説家デビュー以来、10代の少女たちの圧倒的支持を集めている。小説以外の著作物には、お料理の本『キッチンへおいでよ』、エッセイ集『ささやかだけど大切なこと』、漫画の原作を手がけた『恋人をつくる100の方法』（以上講談社）、CD『珊瑚物語〜ガールズ・カレンダー』（日本コロムビア）ほか、多数がある。



れんあい くに さい
恋愛の国の17才♡

こばやし み ゆ き
小林深雪

●

1996年1月5日 第1刷発行

定価はカバーに表示してあります。

発行者——野間佐和子

発行所——株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21 〒112-01

電話 編集部 03-5395-3507

販売部 03-5395-3626

製作部 03-5395-3615

本文印刷—図書印刷株式会社

製本——株式会社若林製本工場

カバー印刷—半七写真印刷工業株式会社

デザイナー—山口 馨

©小林深雪 1996 Printed in Japan

本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

落丁本・乱丁本は、小社書籍製作部あてにお送りください。送料小社負担にてお取り替えします。なお、この本についてのお問い合わせは文芸局文芸図書第四出版部あてにお願いいたします。

ISBN4-06-199447-6

(文4)

講談社X文庫

恋愛の国の17才♡

：

小林深雪

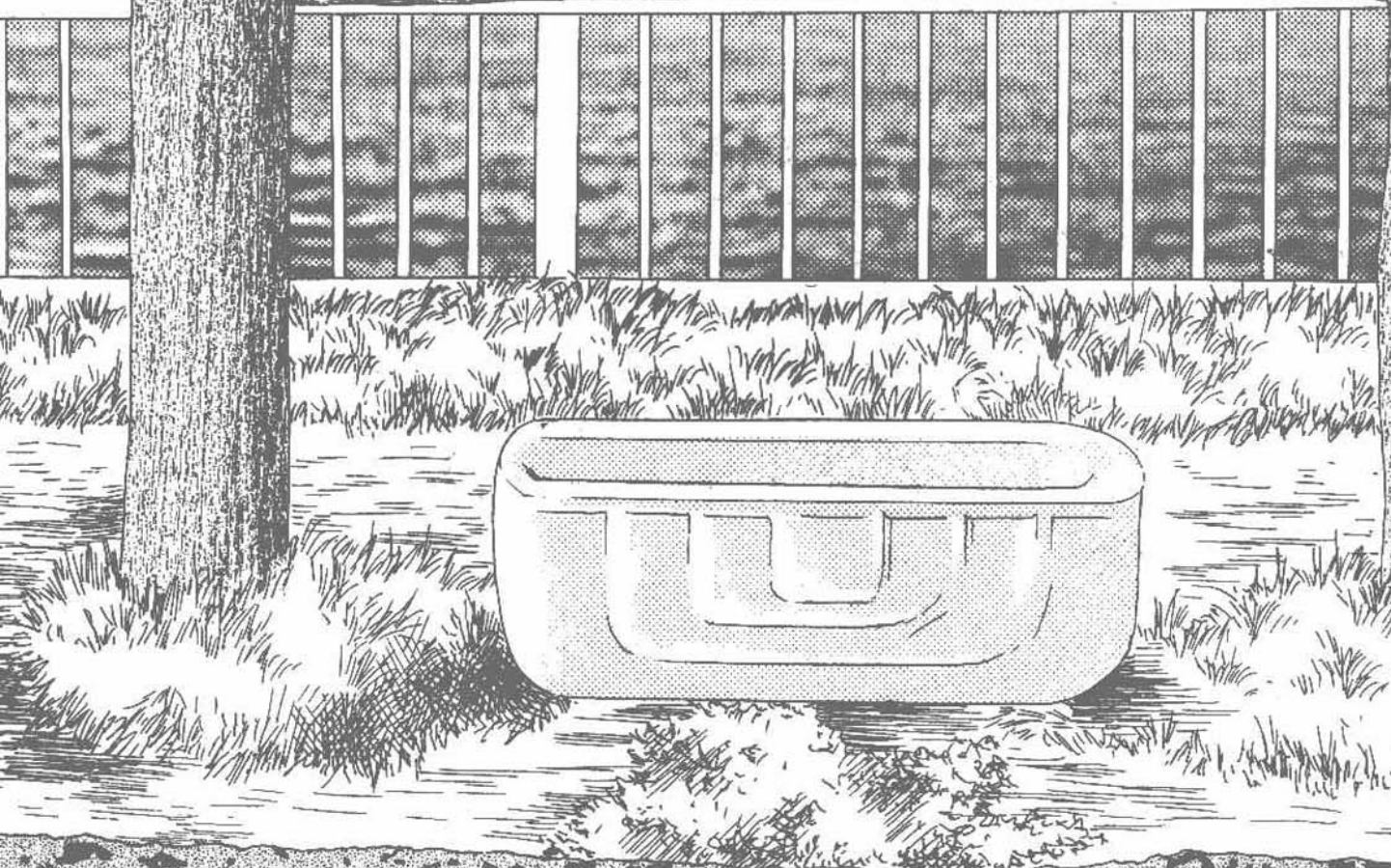
こんにちは！ ^{たかのさほ}高野沙保です！

わたしたちは、今、修学旅行で北海道^{ほつかいどう}に
来ています。なかなかいい感じでしょう？
ね？ あなたも一緒に旅しない？

二級河川長流川水系

とう や こ

洞 爺 湖
北 海 道





恋愛の国の17才♡

CONTENTS

プロローグ	8
夢見るハイスクール・デイ	10
修学旅行	23
水平線が知っている	39
ポストカード	72
突然のラブレター	87
スパイ大作戦	100
あなたを信じたい	117

恋の行方	138
ホントのこと	147
海へ連れて行って	154
羊ヶ丘展望台にて	166
ハッピー・バースデー	179
ご機嫌いかが?	190
あとがき	204
ガールフレンドになりたい!!	218

イラストレーション／まきむら牧村久実

恋愛の国の17才♡

プロローグ

修学旅行は北海道。

3泊4日。

函館、洞爺、小樽、札幌。

生まれて初めて行く、憧れの北の国。

教室の窓の外、眺めては、うわの空。

どうしてだろう。

授業中に限って、想像の翼が、勢いよく羽ばたくのは。

飛行機で青空を渡る。

遠く光る銀の海。

白い波。

緑の草が広がる牧場。

羊が静かに草を食^はんでる。

ポプラ並^{なみ}木。

札幌^{さつぽろ}の時計台。

赤や緑の屋根の、瀟洒^{しょうしや}な町並^{まちな}み。

ハイカラな洋館。

函館^{はこだて}の夜景は、まるで真珠^{しんじゆ}をちりばめたよう——。

ガイドブック眺^{なが}めては、わくわく。

クラスメイトと話しあつては、そわそわ。

だって、修学旅行の最終日は、なんと、わたしの17歳の誕生日！
なにか、素敵^{すてき}なハプニングが起こりそう。

どんな夢でも、ほんとうになりそう。

そんな予感に胸がときめいてる——。

高校2年の5月です——。

夢見るハイスクール・デイ

朝のショート・ホームルーム。

壇上から、担任の高野裕先生が発表した。

「修学旅行は、来月、5月8日から11日まで。3泊4日で、行き先は北海道に決まりました」

そのとたん。

「わあっ！」

クラスじゅうから、おおきな歓声があがった。

みんな、「やんや」の大騒ぎ。

もちろん、わたしだって、嬉しい。

北海道^{ほっかいどう}って、憧^{あこが}れだったんだもん。

わたし、高野^{たかの}沙保^{さほ}。

今年の4月から、高校2年生になりました。

1年から2年になるときには、クラス替えがなかったから。

1年のときに引き続いて、クラスメイトは全員一緒。

ついでに、担任の高野先生まで一緒なんだ。

だから、広岡^{ひろおか}くんも美緒^{みお}ちゃんも、レイナちゃんもケンちゃんも。

みうんなで修学旅行に行けるなんて、ほんとに嬉^{うれ}しい。

「沙保。北海道、行ったことある？」

さっそく。

うしろの席のレイナちゃんが、わたしの背中を叩^{たた}いた。

「ううん。ない。初めて！」

わたし、ぶんつ、勢いよく、うしろを振り向いて答える。

「レイナちゃんは？」

「わたしも初めて！」

「楽しみだね」

「ほんと！ほんと！」

「写真いっぱい撮ろうね」

「うん」

「あと、北海道のおいしいもの、いっぱい食べたいな♡」

「沙保ってば、食い意地はってるー」

「だって、北海道って、すごく食べ物がおいしいっていうじゃない？ 魚介類でしょ。」

とうもろこしにポテトでしょ。メロンにチョコレートにカマンベール・チーズ」

「沙保、アイスクリームも忘れちゃだめよ。わたし、札幌の雪印パーラーで、アイスク

リーム食べたいな」

大人っぽく見えるレイナちゃんが、そう言つて、無邪気な笑みを浮かべてる。

それが、なんか、すごく可愛い。

桑原レイナちゃん。

サラサラの長い髪。

睫毛が長くて、パッチリした瞳。

おとな
大人っぽい美人。

でも、この大人っぽさには、理由があるんだよ。

レイナちゃん、まだ高校2年なのに、なんと10歳も年上で、しかも、お医者さまの彼氏がいるのッ！

じつは、わたしと広岡くん。

去年のクリスマスに、レイナちゃんがそのひととデートしてるところ、目撃しちゃってるんだ。

粉雪がチラチラ降りだして。

ハンサムな大人の男のひとと美少女のカップル。

まるで、映画を見てるよう。

なんか、すごくカッコよかったなあ。

なんて、わたしが、思い出し笑いしてると。

レイナちゃんが、いたずらっぽい笑みを浮かべて言った。

「でも、沙保、よかったね。広岡くんと三晩も一緒に♡」

「え？」

三晩も一緒って……。

なんか……それって、いやらしく聞こえない？

べ……べつに、ふたりつきりってわけじゃないんだし。

「ついに、沙保も、修学旅行でファースト・キスかもね？」

「レイナちゃんッ！」

ぽっ。

わたしの頬に火がついた。

「だって、沙保と広岡くんって、奇跡的なオクテなんだもん。中2のときからつきあつて、ファースト・キスもまだだなんて、わたし、びっくりしちゃった」

「レイナちゃん、こ……声がとおきいッ！」

「てつきり、去年のクリスマスにすませたのかと思つてたらさ。クリスマスは、ふたりで、ずーっと雪合戦してたつていうじゃない。子供じゃないんだから」

だ……だって。

東京で、12月に雪が降るなんて、めずらしいのよ。

だから、つい、はしゃいじやつたんじゃない。

「ほーんと、小学生みたいよねー。沙保と広岡くん」

